岩下議員（民主県政会）

平成 28 年２月 29 日
教 育 長 答 弁 実 録
（ 教 育 委 員 会 ）

（問）ハイスキル人材への処遇面での対応策等について

教育を行う先生や，全寮制の中で生活の面倒を見るスタッフには，かなり高等な技能が要求されることとなる。特に，高校レベルにおいては，英語を使った各種授業を行うこととなっており，日常生活での英語化も想定されることから，スタッフを含め，卓越した英語力が求められることとなるが，そのような人材は，国内でも限られていると思う。実際の運用まで，まだ時間があるので，それまでに教育と訓練をしていくことになると思うが，そんな人材が十分に育成できるかについての疑問もある。

仮に，そうした人材が育成できると仮定したとき，そのようなハイスキルの人材の流出防止をどのように図るのか，また，県の教育委員会では，特殊技能をもつ人材に対する特別な給与体系は確立しているのか，国公私立の枠を超えた人事交流を可能にする処遇面での対応策が必要だと思うが，併せて教育長の見解を伺う。

（答）

この学校の教職員につきましては，学校の目指す理念やコンセプトに強く共感し，教育活動や生徒との関わりに大きなやりがいを感じてもらえることが重要であると考えております。

一方で，勤務の特殊性を適切に評価し，必要な処遇を行っていくことも重要であると考えており，今後，人材の育成・配置の在り方や処遇などについて，しっかりと検討してまいりたいと考えております。

また，併せて，教職員の多様性を確保するとともに，この学校の成果を広く県内に普及していく観点から，今後，国公私立の枠を超えた教員の人事交流や，外部人材の登用などにつきましても，検討してまいります。